

黒岩祐治

明日を語るふ

1999 12/21 ~

「映像の20世紀」の告発

# 目次

[25]「映像の20世紀」の告発 .....	3
[26] 「映像の20世紀」の告発2 .....	4
[27]「映像の20世紀」の告発3 .....	5

## [25]「映像の20世紀」の告発

投稿者：S L T

投稿日：99年12月21日<火>23時53分

みなさんこんばんは。

日々のニュースばかり追いかけていて、ふと足元を見失っていたのではないかと、そんな反省をもって見ている番組があります。

NHKが再放送している「映像の20世紀」です。

この番組には、いろんな社会問題を考える上で抑えておかなければならないヒントが多く含まれているような気がするからです。

昨年来、小林よしのり氏や西尾幹二氏らが中心となったいわゆる自由主義史観（修正主義史観）といったような議論が盛んに行われました。

その内容をここで細かくは論じるのは避けませんが、その内容は一般に戦争を肯定 太平洋戦争の正当化 戦争犯罪の否定といった論理をたどるものと理解しています。

これに対する批判・評価は様々ですが、今回は私が彼らに対して素朴に思った疑問をどうしてもぶつけてみたくなりました。

それは、なんとまあ子供っぽい言い方ですが、

「戦争、見たことあるのですか？」

## [26] 「映像の20世紀」の告発2

投稿者：S L T

投稿日：99年12月21日<火>23時54分

書いていて、自分で突っ込みたくなってきましたが、続けます。  
というのも、この実感が自由主義史観というものへの核心的な批判となりそうだなと思ったからです。

自由主義史観と呼ばれる論者達一般の言動を見てみると、本当にそこまで戦争を美しく語っていいのかという恐ろしさを感じずにはられないのです。  
向こう見ず、と言ってもいい。

今の自由主義史観の論者達は、一昔前、ベトナム戦争への従軍報道の経験がある徳岡孝夫氏などと違い、戦争の現場を見た経験が殆どない人達ばかりです。  
そういう人達が、まるで見てきたかのように戦争を語り、漫画を書く。  
これが、恐ろしいことだと思います。

私ももちろん(こんな言い方が出来るのは日本人だけでしょうが)戦場を見た経験がありません。だから、躊躇するのです。

どんな社会でもそうですが、その中には、美しいものもあれば汚いものもあり、その美しい部分だけ切り取って果たしてそれを真実と断言していいのでしょうか。

彼らが自虐史観として批判する人達は、確かに、戦争の汚さばかりを切り取り、それを語りさえすれば平和が達成されると信じていました。あまりに公平さを欠いた考え方ですが、しかし彼らを批判する今の自由主義史観を語る人達の考えは、その逆の点で、公平さを欠いている、歪んだ自己肯定主義に過ぎないのではないのでしょうか。

今日のスーパーニュースでも黒岩さんが語っていましたが、人間の中には自分の子供を守ろうとする優しさも、他人の子供も絞め殺してみたくなるほどの憎しみも両方持ち合わせている生き物なのです。だから、戦争を止めるのは難しいのです。

「映像の20世紀」も他の人から見れば、どちらかといえば、戦争の悲惨さを訴えるものであり、公平さを欠いているかも知れません。しかし、当時から残された膨大な資料にあたり、検証のうえ、ナレーターの山根基世さんが抑えた言い方で語る戦争は、それはそれで、十分ではないかもしれませんが、真実に迫る作品ではないのでしょうか。

果たして、自由主義史観を語る人達にそういう姿勢を見出すことが出来るか  
というと、首をかしげざる得ません。

## [27]「映像の20世紀」の告発3

投稿者：S L T

投稿日：99年12月21日<火>23時55分

最後になりましたが、私はここにこのような投稿をしたことを少し後悔しています。

他の政治・社会をかたる掲示板に一般に見られることですが、このような個人の政治思想の核心に触れる問題を論じ始めれば、必ずといっていいほど、[自由主義史観](#)の論者と[従来史観](#)の論者との間の不毛で絶望的な叩き合いが展開されるからです。

しかし、ミレニアムを前に何て言ったら、流行に乗っかっている感じで少しくすぐったいですが、真面目に、本当に1から、戦争で何だろう、という素朴で大切な問題に一区切りするのも良いかも知れないと考え、また、ここなら、論者の冷静な討論が比較的にしる期待できそうな気がしたので、この場をお借りしてみなさんのご意見を伺いたい次第です。

どうかよろしくお願いします。